

日本の孔子学院における中国語教育の特徴

——立命館大学と武蔵野大学の孔子学院に関する比較分析——

三 浦 明 子

キーワード：孔子学院，日本，中国語教育，立命館大学，武蔵野大学

はじめに

日本の外国語学習の中では英語の次に中国語が人気が高いが、高校までの中国語教育の機会は非常に限られ、早期教育が議論され実施されつつある英語と比べると、顕著な差がある。文科省『平成27年度高等学校などにおける国際交流等の状況について』によると、中国語科目を開設しているのは高校等で504校、その履修者は17,210人である。同年度の高校の学校数は4,939校、生徒数は3,319,114人なので、高校で中国語を学習した生徒はわずか5.2%である⁽¹⁾。日本の中国語教育の主流は、専門学校等や大学の語学教育であり対象者は18歳以上向けである。

中国の孔子学院本部の公式HPによれば、2019年9月の本稿執筆時において、日本の孔子学院は15校、孔子課堂が2か所であり、米国の88校、12か所や韓国の23校、5か所には及ばないが、国際的に少ないとはいえない。

本稿では、公開されたシラバスの情報を中心に、日本の2つの孔子学院、立命館大学孔子学院と武蔵野大学孔子学院の中国語教育について分析する。前者は日本で最初に設立された孔子学院で関西地方を中心に教育を行っている。後者は首都圏で最も新しく設立された孔子学院である。この2つの孔子学院を比較研究の対象に選ぶのは設立時期によってその教育に異なる特徴が見られるのか、また中国の孔子学院本部の影響が見られるのかを明らかにしたいからであ

る。これまで日本語の孔子学院研究としては孔子学院の組織や運営などを分析した大塚豊と尹景春、馬場毅の研究が詳しい⁽²⁾。しかし日本における孔子学院の教育プログラムの詳細や日本の孔子学院と中国の孔子学院本部との関係は十分に分析されていない。そこで本稿では設立時期や所在地の異なる2つの孔子学院の比較研究を通じて、日本における孔子学院の中国語教育の特徴を明らかにする。

1. 立命館大学孔子学院の中国語教育

立命館大学孔子学院は、北京大学を提携校として2005年10月に設置された日本で最初の孔子学院である。2006年6月には東京学堂が開設され、2008年には同済大学を提携校として大阪学堂が設置された。

立命館大学孔子学院は、多彩な中国語講座および文化講座を開講している。2019年度は、文化講座が全10回の中国理解講座、同4回の北京大学・立命館大学連携講座と中国古典文化講座、同済大学・立命館大学孔子学院合同セミナー、隔月1回開催の読書会、中国語教育者向けの現代中国語セミナーが開催されている。以下では紙幅の都合から、中国語講座を中心に分析する。

① 教室の立地

立命館大学孔子学院の公式HPによると、それぞれの教室の立地は以下の通りである⁽³⁾。衣笠教室（以下：衣笠）は立命館大学衣笠キャン

パス（京都府京都市北区等持院北町56-1）内にある。衣笠には教室の他、事務室・図書資料室・会議室もある。周辺は有名な寺院が点在する住宅地であり、立命館関係者や近隣住民以外の通学には便利とはいえない立地である。ただし孔子学院スタッフが常駐しているのは衣笠のみで、他の教室についての問い合わせ先も衣笠となっている。京都駅前教室（以下：京都駅前）はキャンパスプラザ京都（京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939）内にあり、通学に便利な立地である。大阪学堂教室（以下：大阪）はシラバスでは大阪梅田と表記され、立命館大阪梅田キャンパス（大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル5階）内にある。BKC教室（以下BKC、公式HPの組織図では学堂と表記）は、立命館大学びわこ・くさつキャンパス（滋賀県草津市野路東1丁目1-1）内にある。シラバスでは滋賀草津と表記されている。また、大阪と京都の中間に位置するOIC教室（以下OIC）はシラバスでは大阪茨木と表記され、立命館大学大阪いばらきキャンパス（大阪府茨木市岩倉町2-150）内にある。唯一、関東にある東京学堂教室（以下：東京）は、立命館東京キャンパス（東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー8階）内にある。大阪と東京の教室はいずれもターミナル駅のオフィスビル内にあり、周辺で勤務する社会人も通いやすい場所である。

② 時間割

立命館大学孔子学院の中国語講座は多様なレベルが提供されている。いずれの講座も1回の講義は90分で、週1回開かれる。講座には通年と半年の2種類があり、通年はすべて28回開講される。半年クラスは、講座によって回数が14回、10回、8回と異なっている。その他に短期では春夏の休暇期間に開講される「弱点克服講座」がある。別立てのカリキュラムとして「中国語サロン」が衣笠と大阪で通年開催されている。

2019年度前期スタートの通年講座は、6教室

合わせて35講座となっている。内訳は衣笠7、京都駅前8、OIC2、BKC2、東京8、大阪8となっている。通学に便利で受講者が見込める京都駅前、大阪、東京の3か所と本部である衣笠に講座が集中している。時間帯では、土曜日午前・午後と月曜日を除く平日夜（18時10分～）に開講されている。特に土曜日は衣笠、京都駅前、大阪の3教室で18講座が開講され、全講座の半数以上が集中している。

③ 講師

講師紹介は各教室別に顔写真つきで立命館大学孔子学院公式HPで公開されている。2019年度担当の講師は関西の5教室を担当する13人と東京担当の5人である⁽⁴⁾。関西の講師は関西の別教室を兼務する場合もあるが、東京担当の講師は関西の教室を兼務していない。

講師は18人中15人（83%）が中国出身であるが、「中国語サロン」担当の2人を除いて本部派遣講師であるか否かは明記されていない。記入項目は出身大学、専門分野、職歴などの自己紹介と受講者へのメッセージに分かれており、いずれも自由記述となっている。来日時期、講師就任時期などは講師により記載の有無にばらつきがある。「中国語サロン」担当講師の2人は中国語、他の講師は全員日本語で書いている。講師の学歴は不明の1人を除いて全員が日本か中国の大学院を修了している。取得学位は博士号3人、修士号14人、不明1人で、専攻は大半が語学教育関係だが、経済学や芸術学専攻者もいる。

④ 講座のレベル分け

通年クラスは、レベルによって「基礎講座」と「発展講座」の2つに分かれている。

表1からわかるように対象者が中国語検定（中検、以下同）⁽⁵⁾4級程度までの講座が「基礎講座」で、中検3級程度以上からが「発展講座」に分類されている。衣笠、京都駅前、大阪、東京には各レベルの教室があるが、BKCとOICは

表 1 立命館大学孔子学院中国語講座レベル

	講座名称	レベル 中検	授業 回数	対象者	到達目標
基礎講座	中国語・ 初級Ⅰ	初学者	1年 28回	<ul style="list-style-type: none"> • 初学者 • 学習経験はあってもほとんど忘れた方 • 発音の基礎からもう一度学びなおしたい方 	<ul style="list-style-type: none"> • 発音および基本的な文法事項のマスター
	中国語・ 初級Ⅱ	準4級	1年 28回	<ul style="list-style-type: none"> • 発音を一通り学んだ方 • 繰り返し基礎を学びたい方 • 1年程度の学習経験がある方 • 初級Ⅰを終えた方 	<ul style="list-style-type: none"> • 中検4級レベル（平易な中国語を聞き、話すことができる） • ごく簡単な会話ができるようになる
	中国語・ 準中級Ⅰ	準4級～ 4級	1年 28回	<ul style="list-style-type: none"> • 中国語検定準4級～4級レベルの方 • 基本的な文法事項をマスターしている方 • ごく簡単な会話ならてきめる方 • 2年程度の学習経験がある方 • 初級Ⅰ、Ⅱを終えた方 	<ul style="list-style-type: none"> • 中検3級（基本的な文章を読み、書くことができる。簡単な日常会話ができる）やHSK4級を目指すレベル
	中国語・ 準中級Ⅱ	4級	1年 28回	<ul style="list-style-type: none"> • 中国語検定4級レベルの方 • 基礎の総仕上げをしたい方 • 準中級Ⅰを終えた方 	<ul style="list-style-type: none"> • 中検3級、HSK4級に合格できるレベル • 日常生活場面で基本的なコミュニケーションができるようになる
	文法おさらい 講座	4～3級	半年 14回	<ul style="list-style-type: none"> • 基礎講座を受講されている方、もしくは同等のレベルの方 • 中検4級～3級レベルの基礎的な文法事項をマスターしたい方 	<ul style="list-style-type: none"> • 中検4級～3級の文法事項を完全マスターする • 文法の基礎を固め、会話力・表現力のアップにつなげる
発展講座	中国語会話 【中級】	3級	1年 28回	<ul style="list-style-type: none"> • 初級、準中級レベルの学習を終えた方 • 中国語検定3級程度のレベルの方 	<ul style="list-style-type: none"> • 中検2級、HSK5級レベル
	中国語会話 【準上級】	2級	1年 28回	<ul style="list-style-type: none"> • 中級を終えた方 • 中国語検定2級程度のレベルの方 	<ul style="list-style-type: none"> • 中検準1級、HSK6級レベル
	中国語会話 【上級】	2級～	1年 28回	<ul style="list-style-type: none"> • 口語を徹底的にブラッシュアップしたい方 	<ul style="list-style-type: none"> • 徹底した会話練習を通じて、ネイティブレベルの口語力を養う
	留学体験！ 北京大学の 中国語講座 【中級～上級】	2級～	半年 14回	<ul style="list-style-type: none"> • 中国語検定2級以上の中上級者 	<ul style="list-style-type: none"> • 中国語の総合力をレベルアップする
	速成ビジネス 中国語	記載なし	半年 14回	<ul style="list-style-type: none"> • 初級・準中級レベルの学習を終えた方 	<ul style="list-style-type: none"> • ビジネスシーンに必要な中国語力を獲得する

出所 立命館大学孔子学院公式HPより著者作成

「基礎講座」のみとなっている⁽⁶⁾。

⑤ 「基礎講座」シラバスに関する分析

開講中および募集中の中国語講座のシラバスは公式HP上に公開されている。以下では2019年度前期開講のシラバスを分析し立命館大学孔子学院の中国語講座の特徴を明らかにする。シラバスには、講座名、日程、教室が最初に表示され、続いてテキスト、講座概要、対象者、到達目標、講師紹介、講師からのメッセージ、授業予定内容が記載されている。同じ名称の講座であれば、対象者と到達目標はごく一部の例外を除いて統一されている。しかし、それ以外の内容は担当講師によって全く異なっている。

「基礎講座」に分類されるのは「中国語・初級Ⅰ」、「中国語・初級Ⅱ」、「ブラッシュアップ中国語」、「中国語・準中級Ⅰ」、「中国語・準中級Ⅱ」である。

表2は「基礎講座」の通年講座「中国語・初級Ⅰ」と同「中国語・初級Ⅱ」、「ブラッシュアップ中国語」を教室、曜日、担当講師、教科書、対象者、到達目標、発音授業の回数についてまとめたものである。「中国語・初級Ⅰ」は最も初歩の入門講座である。またBKC以外のすべての教室で開講され、開講数も8講座で最も多く対象者はすべて「初学者」である。「中国語・初級Ⅰ」講座で使用されている教科書は、表2の通り担当者によって異なっている。

また各回の授業内容を説明した「授業予定内容」も講師により異なる。たとえば「中国語・初級Ⅰ」では講師により全28回のうち発音の授業回数が1～5回とばらつきがある。土曜日衣笠「中国語・初級Ⅰ」の発音の授業は1回のみだが、同「中国語・初級Ⅱ」では発音の授業が3回も設定されている。

「中国語・初級Ⅱ」からは中国にある孔子学院本部企画教材をテキストとして使用した講座がある。これは北京大学及び立命館大学に所属する複数の担当者が共同で編著を担当した独自のテキストである。全4講座のうち担当者の異

なる2講座（木曜日京都駅前、水曜日東京）で孔子学院本部企画教材（趙延風・[日]吉田慶子等編著『中日橋漢語 中国語一日中の架け橋』（初級下）』北京大学出版社、2012年）が使用されている。

なおBKCでは、経験者を対象にした「ブラッシュアップ中国語」が開講されている。

「中国語・準中級Ⅰ」では対象者は「中国語検定準4級～4級レベルの方、2年程度の学習経験がある方、初級Ⅰ、初級Ⅱを終えた方」となっている。全4講座のうち1講座（水曜日京都駅前）で孔子学院本部企画教材が使われている。「中国語・準中級Ⅱ」でも1講座で同じ中国の孔子学院本部の企画教材が使われているが、他の3講座はそれぞれ別のテキストとなっている。

シラバスをみると、「中国語検定4級レベル」から「中国語検定3級レベル」へのステップアップには、受講者によって到達までの学習期間に差が出ることも想定している。「中国語・初級Ⅱ」の到達目標は中国語検定4級レベルである。同講座を終えて「中国語検定4級レベル」に到達していない受講者であっても同じ科目を再履修させずに「中国語・準中級Ⅰ」「中国語・準中級Ⅱ」とステップアップしながら、学習を深めていくというシラバス編成上の工夫があると考えられる。到達目標に「中国語検定3級」が入っているのは「中国語・準中級Ⅰ」と「中国語・準中級Ⅱ」「ブラッシュアップ中国語」である。「中国語・初級Ⅱ」の到達目標である「中国語検定4級レベル」から「中国語・準中級Ⅱ」の「中国語検定3級」まで2年間、じっくりと時間をかけて行われる。

⑥ 「発展講座」シラバスの分析

「発展講座」では、13講座が開講されている。中検3級程度のレベルからスタートすることでは統一されているものの、進め方などは講師によって異なる。例えば「中国語会話（中級）」でも、使用するテキストは講師によってすべて

表2 2019年度立命館大学孔子学院中国語「基礎講座」(初級)

教室	講師名	テキスト題名・著者・出版社	対象者	到達目標	発音 授業 回数
中国語・初級Ⅰ					
土衣笠	田星	漢語鍛錬一対話できたえる中国語新訂版 奈良行博, 中村俊宏, 佟岩, 橋本昭典著 同文学社	初学者 学習経験はあってもほとんど忘れた方 発音の基礎からもう一度学びなおしたい方	発音および基本的な 文法項目を習得し、 のちの学習の土台を つくる	1
土駅前	竹中島厚子	李麗と話そう!中国語初級文 法&会話 中国語教育実践方法論研究会編 郁文堂	初学者		4
金駅前	王大川	ニーハオ!ニッポン-ふりむけ ば中国語。 相原茂, 朱怡穎著 朝日出版社	初学者 学習経験はあってもほとんど忘れた方 発音の基礎からもう一度学びなおしたい方		5
木OIC	甘琳樺	読み書き話す中国語の基本 新谷秀明, 王宇南著 朝日出版社	初学者 学習経験はあってもほとんど忘れた方 発音の基礎からもう一度学びなおしたい方		5
土大阪	李曉梅	どうちがう?似たもの中国語 相原茂, 蘇紅著 朝日出版社	初学者 学習経験はあってもほとんど忘れた方 発音の基礎からもう一度学びなおしたい方		5
火大阪	李曉梅	どうちがう?似たもの中国語 相原茂, 蘇紅著 朝日出版社	初学者 学習経験はあってもほとんど忘れた方 発音の基礎からもう一度学びなおしたい方		5
木東京	楊敏	老師好-王先生との出会い- 守屋宏則, 陳浩, 梁月軍著 郁文堂	初学者 学習経験はあってもほとんど忘れた方 発音の基礎からもう一度学びなおしたい方		4
土東京	楊敏	老師好-王先生との出会い- 守屋宏則, 陳浩, 梁月軍著 郁文堂	初学者 学習経験はあってもほとんど忘れた方 発音の基礎からもう一度学びなおしたい方		4
中国語・初級Ⅱ					
土衣笠	田星	ニーハオ!ニッポン-ふりむけ ば中国語。 相原茂, 朱怡穎著 朝日出版社	発音を一通り学んだ方 1年程度の学習経験がある方 初級Ⅰを終えた方	発音および基本手的 な文法事項をマスタ ーし、簡単な会話が できるようになる。 中国語検定4級 レベル	3
木駅前	彭奕漫	中日橋漢語 中国語一日中の 架け橋 (初級上・下) 孔子学院本部企画教材 北京大学出版社			なし
土大阪	甘琳樺	大学生のための初級中国語40回 杉野元子, 黄漢青著 白帝社			なし
水東京	承春先	中日橋漢語 中国語一日中の 架け橋 (初級下) 孔子学院本部企画教材 北京大学出版社			なし
ブラッシュアップ中国語					
木BKC	呉英玉	プリント教材 オリジナル	中国語検定4級レベルの方 正規の授業で1年間学んだ方 中級へのステップアップを目指す方	中国語検定3級, HSK4級をクリアで きるレベル 日常的な話題でのコ ミュニケーションが できるレベル	なし

出所 立命館大学孔子学院公式HPより著者作成

異なる。各講師の「講座概要」も、「会話能力の向上を目指し」、「自由に言いたいことが言えるように」、「今年度はより『会話』に重点を置いたテキスト」、「会話の幅を広げ」と表現は様々である。会話のテーマについても講師による違いがみられる。たとえば王大川講師は「ディベート形式のテキストを使い、今の中国社会や文化についての理解を深めていく」と記述し、陳朝朝講師は「『飲食』『生活習慣』といった基本的な話題から、『歌舞伎と京劇』『方言』といった異文化への理解を深める話題も授業中に取り上げる」として文化を重視する授業内容になっている。読むことの重要性を強調しているのは2講師である。永井英美講師は「テキスト各課の長文を読んで読解力を向上させれば、会話やリスニングの力も伸びてゆく」、馮日珍講師は「文章を読むことにより語彙を増やし読解力、表現力を磨いていく」としている⁽⁷⁾。

⑦ 短期コース

通年コースの他に、半年コースと春と夏の休暇期間中に実施される短期の講座がある。半年コースは、「留学体験!」、「速成ビジネス会話」、「試験対策講座」の3種類が開講されている。授業回数は「留学体験!」と「速成ビジネス会話」は14回、「試験対策講座」の「HSK対策講座」は10回、「中国検定対策講座」は8回である。「速成ビジネス会話」は孔子学院本部企画の教材を使用し、2019年度前期は東京のみの開講である。「試験対策講座」は中国語検定の2級と3級、HSKは4～6級の受験向けの講座が開講されている。

⑧ 中国語サロン

中国語サロンは、通年で平日昼（13時から）の衣笠と土曜日午後（16：30から）に大阪で実施されて、北京大学の教員（衣笠）と大学院生（大阪）が担当する⁽⁸⁾。

時間は90分間で、衣笠では初級（火曜）、中級（水曜）、上級（金曜）のレベル分けがある。

大阪は上級のみが開催されている。公式HPでは、中国語サロンについて「リラックスした雰囲気の中、中国語を使って楽しくおしゃべり」、「中国語講座受講生以外の方も、お気軽にご参加ください」と紹介している。中国語講座受講生および立命館大学学生は無料で参加できる。

⑨ まとめ

時間割は、「中国語サロン」を除き学生や社会人の参加しやすい平日の夜や土曜日に設定されている。交通の便が良い教室を京都、大阪、東京と各ターミナル駅前に開講している。「基礎講座」は21講座と充実している。特に中国語検定4級から3級へのレベルアップが工夫されている。

シラバスでは、同じ名称の講座であれば対象者と到達目標はほぼ共通している。その他の項目、テキストや講座概要、講師からのメッセージ、授業の予定からは、講師の裁量の大きさがうかがわれる。孔子学院本部企画の教材を採用しているのは34講座中7講座で、全員中国出身講師である。彭奕漫講師は担当する「中国語・初級Ⅱ」から「中国語会話（準中級）」までのすべての講座で孔子学院本部企画の教材を採用している。「中国語・初級Ⅰ」と「中国語会話（上級）」以外の各レベルで1講座は本部企画教材を採用している。

2. 武蔵野大学における孔子学院の中国語教育

武蔵野大学孔子学院は2016年4月に天津外国語大学との提携で開設された。この孔子学院は日本で14番目で、本稿執筆時では国内で2番目に新しい⁽⁹⁾。同学院の公式HPでは設立の目的の1つに「2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、本学学生や大学周辺で高まる中国語需要に応えます」とうたっている⁽¹⁰⁾。2019年度前期中国語講座には、各レベルの中国語講座に加えて文化講座（太極拳、中国書道、気功法）も含まれている。

① 教室の立地

武蔵野大学孔子学院はメインキャンパスでなく、有明キャンパス（東京都江東区有明3-3-3）にある。近隣の豊洲シビックセンター（東京都江東区豊洲2-2-18）でも短期講座が開講されている。武蔵野大学孔子学院の特徴は、中国の孔子学院本部との連携である。後述するように、講師全員が中国出身でその半数以上が中国にある孔子学院本部からの派遣講師である。また中国語検定対策講座を除いて、テキストはすべて孔子学院本部の企画教材である。

なお孔子学院の中国語講座と文化講座は、武蔵野大学生涯学習講座の一部である。問い合わせ先は有明キャンパスの武蔵野大学孔子学院ではなく大学メインキャンパスの武蔵野大学社会連携センター（東京都西東京市新町1-1-20）となっている。

② 時間割

講座はすべて半年単位となっている。2019年前期時間割は平日夜と土曜日昼間に開講され、月曜、金曜、日曜は開講されない。子供向け「楽々中国語講座（子供向け）」や1日限定の「中国語と中国文化にふれる春 春の短期講座」、「中国語と中国文化にふれる夏 夏の短期講座」といった特徴のある講座もある。

③ 講師

2019年度前期の武蔵野大学孔子学院の中国語講師は10人全員が中国出身である。また本部派遣の講師についてはその旨が明記されている。講師紹介は孔子学院中国側院長を筆頭に孔子学院本部派遣教授、同准教授、同講師と本部派遣の職位順に記載され、その後に武蔵野大学大学院言語文化研究科在学中の非常勤講師が記載されている。講師の学歴は博士3人、修士2人、大学院在学中の者3人となっている。専門分野は教育学、文学、文学文化、対外中国語教育、外国語文学、日本語言語、言語学、言語文化などとなっている。

④ 講座レベル分け

表3の通り、2019年度前期の武蔵野大学孔子学院中国語開講講座のレベルは「会話・試験対策」で5段階、「文化」「技能」が1段階に分けられている。各講座の「必要な総単語数目安」も設定されている。

最上位レベルの「5th」は「中国語会話上級」（必要な総単語数目安2000-5000）と「HSK対策講座6級」（同5000）となっている。「会話上級」はビジネスに限定せず、より広い対象者に受講してもらえるような工夫がされている⁽¹¹⁾。「文化」と「技能」の講座はともに中検2級・HSK 5級相当と設定されており、これは「会話・試験対策」の「4th」と同じである。ただし、「必要な総単語数目安」は1200-5000となっており、「4th」の講座の「必要な総単語数目安」が1500（「中国語会話中級Ⅲ」）から2500（「中国語会話中上級Ⅱ」、「HSK対策講座5級」）であるのと比べるとより幅広い。「文化」講座には「ニュースで学ぶ中国語」と「中国古典鑑賞」が該当する。「技能」講座には「中国語通訳実践講座」と「中国語で学ぶ市民ボランティア養成講座」がある。

2019年度前期の「中国語講座のご案内」のチラシには上述の講座以外に、「太極拳」、「中国書道」、「気功法」、「留学準備講座」があるが、いずれも講座レベル一覧には記載がない。

⑤ 「中国語会話」シラバスに関する分析

シラバスは同じ講座名であれば開講日時が異なっても、授業各回の教材の該当箇所が指定されており担当講師による違いはない。前述の立命館大学孔子学院と比較すれば、最初級の「中国語会話入門」の発音の授業はすべて4回設けられている。また試験対策以外のすべてのレベルで会話の練習を重視している。各講座のシラバスでは次のように会話の練習について言及している。

入門・初級「十分な会話を練習するチャン

表3 武蔵野大学孔子学院中国語講座レベル

種別	レベル	講座名	使用テキスト	必要な単語数目安
会話・試験対策	1st (中検準4級・ HSK 2級相当)	中国語会話入門	漢語口語速成－入門篇（上） 第1課～8課	0
		中国語会話初級	漢語口語速成－入門篇（上） 第9課～	200
	2nd (中検4級・ HSK 3級相当)	中国語会話初中級Ⅰ	漢語口語速成－入門篇（下） 第16課～23課	400
		中国語会話初中級Ⅱ	漢語口語速成－入門篇（下） 第24課～30課	600
	3rd (中検3級・ HSK 5級相当)	中国語会話中級Ⅰ	漢語口語速成－基礎篇 第1課～8課	800
		中国語会話中級Ⅱ	漢語口語速成－基礎篇 第9課～16課	1200
		中国語会話ビジネス (中級)	贏在中国－商務漢語系列教程 基礎篇3（英語注釈）	
	4th (中検2級・ HSK 5級相当)	中国語会話会話中級Ⅲ	漢語口語速成－基礎篇 第17課～25課	1500
		中国語会話中上級Ⅰ	漢語口語速成－提高篇 第1課～10課	2000
		中国語会話中上級Ⅱ	漢語口語速成－提高篇 第11課～20課	2500
		HSK対策講座5級	—	
	5th (中検1級・ HSK 6級相当)	中国語会話上級	漢語口語速成－提高篇 中級篇	2000-5000
HSK対策講座6級		—	5000	
文化	(中検2級・ HSK 5級相当)	ニュースで学ぶ中国語	—	1200-5000
		中国古典鑑賞	—	
技能	(中検2級・ HSK 5級相当)	中国語通訳実践講座	—	1200-5000
		中国語で学ぶ市民ボラン ティア養成講座	—	

出所 武蔵野大学孔子学院公式HPより著者作成

スがあります」

初中級Ⅰ「会話を練習するチャンスがあります」

初中級Ⅱ「会話の練習も十分にできます」

中級Ⅰ「中国語の会話の楽しさを味わえるように展開されています」

中級Ⅱ「ロールプレイを通じて会話の楽しさを味わえる」

中級Ⅲ「会話の楽しさを味わいながら、自由な表現力を養成します」

中上級Ⅰ・Ⅱ「会話の練習も十分にできます」

上級「難度の高いコミュニケーション表現を勉強します」

ビジネス中級「ビジネスシーンを想定した会話を学んでいきます」

通訳実践講座「十分な会話を練習する時間を設けて」⁽¹²⁾

⑥ その他の講座

A 「楽々中国語講座（子供向け）」16回

これは、半年の6～12歳の入門レベルの子供向け講座である。子供向けのアクティビティの豊富さと英語の併用が特徴である。テキストは『漢語楽園』シリーズの『美猴王漢語1～3』⁽¹³⁾絵本を使用する。これは表紙に「Monkey King Chinese Word Cards」と英語のタイトルが併記され、頭に桃の実を載せ赤いマントをつけた猿のキャラクターのイラストが描かれた児童向けのテキストである。漫画や英語訳も併記されている。シラバスでは講座の多彩なアクティビティの例として「ロールプレイ、中国語歌、遊びごっこ」の形で会話の練習、切り紙細工、中国結び」があげられている。また担当する講師は日本語と英語にも堪能と強調している。

B 「中国語通訳実践講座」16回

この講座は「中国語通訳者を志す皆様」を対象としているが、「近年、中国人旅行者の増加に伴って、中国語通訳、とりわけ日本人の方の中国語通訳 に対する期待が高まり、2020年東

京オリンピックとパラリンピックに向けての重要性が注目されている。日中両国の歴史、社会、政治、経済、文化と風俗習慣などの予備知識を分かりやすく説明します」と書いた通り、資格取得を目指したものではなく即戦力を身に着けることが重視される。同講座のシラバスでは授業の進め方として、「通訳現場の雰囲気」や「通訳の理論より（中略）十分な会話を練習する時間を設けて、一人ひとりのニーズとレベルに合わせて授業を行います」と実践的な講座であることを強調している。

C 「中国語で学ぶ市民ボランティア養成講座」16回

本稿座はBよりもさらに目的が明確である。シラバスでは講座の対象者について「2020年東京オリンピックとパラリンピック開催期間中に、中国語ボランティアになりたい方のために開設する特徴ある、また誰にでも簡単にできる道案内ボランティアのための実用講座です」、「スポーツ関連用語、生活用語、旅行用語を取り込んで会話練習をします」と記載されている。

BとCはいずれもレベル「4th」で「必要な単語数目安」は1200～5000である。Cは短期講座にも同名の講座が開講されている。

D 「ニュースで学ぶ中国語」4月、6月

2019年前期は4月と6月に開講されており、それぞれ同じ講師（劉勇講師）が担当し、シラバスの「内容」も同一であるが、授業の進め方にあたる「スケジュール」は異なる。

シラバスの「内容」をみると、「日本のNHKの中国語ニュース」を教材など、中国語の発音とリスニング向上に重点を置いている。6月開講講座のみ「スケジュール」で「日本のNHKの中国語ニュース」を利用する練習が2コマ分確保されている。シラバスでは「現代中国におけるホットの話題に関するニュース」「中国語のニュースの意味とその背景を理解することもできるように授業計画を立てています。さらに、受講者からの中国語で書かれた感想文や訳文の添削も行います」と記載されている。

E 「中国古典鑑賞（成語，詩歌，論語）」16回

「HSK4級以上の方」を対象として、「詩歌で学ぶ中国語」6回、「4文字熟語で学ぶ中国語」と「論語の魅力」各5回の3部構成になっている。

F 「留学準備講座」8回

本講座は対象者を「中国語圏の大学」への留学希望者としており、中国大陸の大学への留学希望者のみならず中国以外への留学も対象としている。講座は「入学する前に知っておくさまざまな手続き、異文化適応と危機管理対策」として、具体的で実用的な内容となっている⁽¹⁴⁾。

⑦ まとめ

武蔵野大学孔子学院の特徴は次の通りである。講座紹介、本部派遣の講師やテキストなど全体として中国の孔子学院本部との連携が際立っている。また同じ名称の講座であれば、開講日時が異なってもシラバスの内容は同一である。設立目的の1つでもある東京オリンピック・パラリンピックのための講座や子供向けの講座もある。文化講座にも語学レベルを明記している。教室は郊外に位置するメインキャンパスではなく、オフィスや住宅が増加している江東区の有明キャンパスに設置され、生涯学習センターと連携し、学外の社会人にとって通学しやすい環境である。

3. 立命館大学と武蔵野大学の孔子学院の中国語講座の比較

共通点として次の4点があげられる。①時間割は土曜日と平日夜に集中、日曜日と月曜日は休みである。武蔵野大学孔子学院は金曜日にも講座が開講されない。②メインキャンパス外の受講生を集めやすい場所に教室が設置されている。③講座内容では、すべてのレベルで会話が重視されている。④留学希望者向け講座、HSKと中検の試験対策講座の開講も共通している。立命館ではディベート形式、武蔵野ではニュースを教材にして中上級クラスには時事問題の扱

いがある。

相違点として立命館大学孔子学院の場合、講座数や拠点数の多さがあげられる。また同じ講座名でもテキストや授業の進め方が異なるなど講師の裁量が大きい。受講者は無料で参加できる「中国語サロン」も設置されている。中国の提携校との連携を前面に出しているのは「中国語サロン」、「留学！体験」と文化講座だけである。

武蔵野大学の場合、中国語講座全体について中国にある孔子学院本部との連携が強調されている。シラバスは統一されており、各講師による違いはない。東京オリンピックに向けた講座や子供向け講座などに工夫がある。「留学準備」は中国の大学向けのみではなく「中国語圏」への留学と明記されている。講師紹介では孔子学院の職階が明記されている。

おわりに

孔子学院は、中国の大学と現地の大学との協定によって設立され、急速に数を増やしてきた。大学間の協定は非公開である。公開された中国語講座のシラバスは、孔子学院の中国語教育の実際を検討する貴重な手掛かりといえる。

シラバスの検討から、両校の中国語教育はそれぞれの孔子学院による違いが大きいことがわかった。武蔵野大学孔子学院のシラバスは、本部との緊密な連携が強調されている。各レベルの講座は到達目標と対象者が共通であるだけでなく、すべての講座で孔子学院本部の教材が使用され、授業の進め方も教材の該当箇所が指定されている。一方、歴史の長い孔子学院で規模の大きい立命館大学孔子学院のシラバスは、到達目標と対象者はほぼ共通であるが、教材や授業の進め方には、講師の裁量が大きい。本部派遣講師も少数にとどまる。孔子学院本部企画教材のテキストも北京大学と立命館大学の担当者が共同で作成している。中国政府が孔子学院をスタートしたのは2004年であるが、その1年後に立命館大学孔子学院が設立された。初期に設

立された孔子学院として本部との連携の及ばない部分については既存のリソースが利用され、それが授業構成やテキストの選択に関する講師の裁量の大きさに反映されたのであろう。日本側の既存の中国語教育のリソースの大きさが孔子学院の中国語教育に与えるインパクトについては今後の課題としたい。

また立命館大学孔子学院では中国の提携校との連携が明示されているのは「中国語サロン」や文化講座など一部に過ぎない。日本の孔子学院の中国語教育において、中国の孔子学院本部との連携度合についても、本稿の比較分析によって、設立大学によってその差が大きいことを指摘できる。

<注>

- (1) 文科省「英語以外の外国語の科目を開設している学校の状況について（平成28年5月1日現在）」『平成27年度高等学校などにおける国際交流等の状況について』http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/fieldfile/2017/07/06/1386749_27-2.pdf, 2019年5月22日閲覧。
- (2) 大塚豊「中国の対外言語教育戦略と孔子学院」『福山大学 大学教育センター 大学教育論叢』第3号（2016年度），2017年3月，33-52頁。尹景春「中国語国際化の推進施策について」『早稲田商学』第431号，2012年3月，685-707頁。馬場毅「中国の対外教育—孔子学院を中心に」『ICCS Journal of Modern Chinese Studies Vol.2 (1)』2010年，212-220頁。
- (3) 立命館大学孔子学院公式HPの組織図には京都駅前とOICの記載がないが，2019年前期は開講している。
- (4) 短期の弱点克服講座を担当する講師1人のみは紹介がない。
- (5) ただし，研究対象である二校の孔子学院の公式HPから直接引用する場合，原文「中国語検定」通りに，省略せずにそのまま表記する。
- (6) シラバスの中の例外は次のようになっている。

びわこの「基礎講座」は「ブラッシュアップ中国語～基本の復習とレベルアップ～」で対象者，到達目標も他とは異なる。茨木は「基礎講座」は他と同じであるが，他の教室では「発展講座」である「中国語会話（中級）」が「基礎講座」の位置付けとなっている。東京の「中国語会話（上級）」は，対象者は他の同名の講座と共通だが，到達目標が異なる。「文法おさらい講座」は衣笠のみで開催される半期の講座で，対象者，到達目標の記載がない。休暇期間に開催される「弱点克服講座」は全4回以下のテーマ別の短期講座であるが，ウェブ公開されているシラバスはなかった。

- (7) 立命館大学孔子学院公式HP「2019年度中国語講座」<http://www.ritsumei.ac.jp/confucius/lecture/course/>（2019年6月19日閲覧）。
- (8) 「中国語サロン」では毎月のスケジュールを記載したチラシが作成されている。2019年7月分<http://www.ritsumei.ac.jp/file.jsp?id=383325>（2019年6月19日閲覧）。
- (9) 漢弁公式HPによると2018年10月設立の山梨学院大学孔子学院が最新である。（<http://zhuanti.hanban.org/videolist/?cat=665&tag=cn>，2019年9月8日閲覧）。
- (10) 「武蔵野大学孔子学院の設立目的」武蔵野大学孔子学院公式HP<https://www.musashino-u.ac.jp/confucius/about/>（2019年9月8日閲覧）
- (11) 武蔵野大学孔子学院公式HP <https://www.musashino-u.ac.jp/confucius/guide/>（2019年9月8日閲覧）2019年6月17日閲覧時には公式HPでは，講座レベルは「種別」に「中国語会話」で4段階，「中国語ビジネス会話」で2段階，中国語資格試験の「対策講座」が2段階であったが，チラシ（PDF）は，本稿のようにレベル分けされていた。その後，公式HPもチラシと同一に変更されている。
- (12) 武蔵野大学孔子学院「開講講座一覧」http://lifelongstudy.musashino-u.ac.jp/genre_koshi.html#01（2019年6月19日閲覧）
- (13) 劉富華・王巍・周芮安『美猴王漢語1～3』

北京言語大学出版社，2006～2007年。

- (14) 武蔵野大学孔子学院「開講講座一覧」http://lifelongstudy.musashino-u.ac.jp/genre_koshi.html#01 (2019年6月19日閲覧)

※なお注釈として掲載している大学URLの内容については、本稿執筆の際に参照した閲覧日以降に、2019年度前期カリキュラムから、開講中のカリキュラムへ切り替わったため変更されているものがある。

(客員研究員)

A Study of Chinese Language Education Curriculum at Confucius Institutes in Japan:

An analysis of Confucius Institutes at Ritsumeikan University and Musashino University

MIURA Akiko

Confucius Institutes in Japan provide wide range of Chinese language classes among other domestic institutions. Characteristics of Chinese language programs of two Confucius Institutes, Confucius Institute at Ritsumeikan University and Confucius Institutes at Musashino University are analyzed with their syllabi on the Internet. Their official HPs on Chinese language classes also provide information on description of course levels and teachers profiles (place of birth, education, specialities, etc.). The two institutes have a lot in common including short courses for preparation courses for qualification tests; Chinese Proficiency Test and HSK, and preparation courses for study China and other Chinese speaking cultures. However teachers discretion varies between the two institutes. In Ritsumeikan, the oldest Confucius Institute in Japan, established in 2005, teachers choose textbooks and syllabus planning for their class. In Musashino, established in 2016, all classes are taught with Hanban(headquarter in China) officially planned textbooks of different levels. Chapters taught in each lessons are also designated in the syllabus.

Key words: Confucius Institutes , Japan, Chinese Education, Ritsumeikan University, Musashino University